みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

アラビアンナイト：ファンタジーの源流を探る

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2013-02-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4799

第七回　11月11日（木）放送／11月12日（金）再放送

欧米文化への影響　中東から世界へ

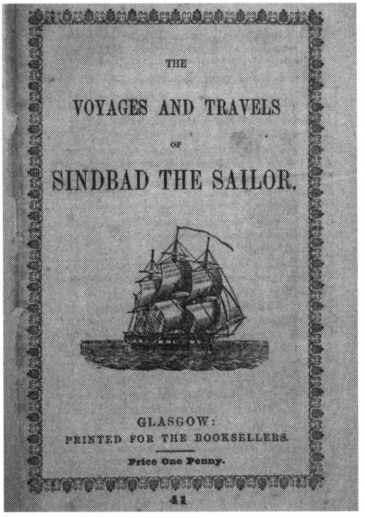
「アラビアンナイト・エンターテインメント」

先にお話ししたように、ガラン版アラビアンナイトは一七一七年に第十二巻が出版されて完結しましたが、刊行中からすでに英語に訳されていました。最初の英訳本は第一巻出版の翌年、一七〇五年に出版されたようです。さらにその翌年には『アラビアンナイト・エンターテインメント（アラビアの夜の楽しみ）』という題名のもとに、ガラン版アラビアンナイトの第一巻から第四巻が二分冊の形で出版されました。これ以後、「アラビアンナイト・エンターテインメント」は次々と版を重ねていき、この英訳題名によってアラビアンナイトという通称が世界に広まったのです。最初期のものは、いわゆるグラッブストリート文士（三文文士）らの手による粗悪な翻訳でしたが、ガラン版アラビアンナイトに収録されている話の多くは、魔法使いや魔人（ジン）が活躍する不思議な物語や、落語を思わせるような笑い話の類でし

たから、子ども向けの作品としてはうってつけだったのです。

ほぼ同じころ、江戸中期の日本では草双紙と呼ばれる庶民向けの絵入り本が広く読まれていました。草双紙にはいろいろな種類があってひと言でくくることはできませんが、最初期のものは桃太郎や舌切りすずめなどの昔話に挿絵がついたものでした。やがて時代がくだると、読本と呼ばれる文章中心の伝奇小説が誕生し、曲亭馬琴らが活躍します。内容が複雑になって長編化した作品は合巻と呼ばれる体裁にまとめられました。

イギリスでも十九世紀になると、市民階級の成長にともなって長編小説が読まれるようになります。それまではキリスト教関係の伝説やジャックと豆の木などの昔話が書かれた庶民向けの小冊子であるチャップブックが出まわっていました。民衆文化は記録に残りにくく、民衆本であったチャップブックもその例に漏れないのですが、国立民族学博物館にはアラジン、アリババ、シンドバッドをそれぞれ単独で収録したチャップブックが収蔵されています。いずれもスコットランドのグラスゴーで出版されたことはわかっていますが、ガランの名も載っていませんし作品の出典も書いてありません。



シンドバッド航海記のチャップブック
（19世紀初頭、イギリス・グラスゴー）

チャップブックは八ページから二十四ページ程度の薄い小冊子です。平易な言葉で書かれており、挿絵の入ったものもありました。チャップマンと呼ばれる行商人が地方を回って売り歩きましたので、大都市以外でも手にすることができました。チャップブックには作者名は記されていませんが、先ほど触れたグラブストリート文士らの手になるものではないかとされています。グラブストリートはロンドン中心部の通りの名ですが、現在、この名前の通りはありません。十七世紀になって出版業者が軒を並べるようになると、売れない文士たちが家賃の安い屋根裏部屋に暮らし始め、グラブストリートと言えば貧乏な二流文士を意味するようになってしまいました。

イギリスに入ってきたアラビアンナイトは、「アラビアンナイト・エンターテインメント」のような書籍となって中流階級に読まれただけではなく、チャップブックとしても一般庶民に親しまれるようになり、誰もが知るおとぎ話へと変貌していったのです。

「ガランは子ども部屋に、バートンはどぶに」

市民階級の成長にともなって、児童文学というジャンルが芽生えてくると、一八一一年には子ども向けアラビアンナイトの底本となったものが出版されました。これは翻訳者の名をとってスコット版アラビアンナイトと呼ばれています（『アイヴァンホー』などの歴史小説で有名なサー・ウォルター・スコットとは別人）。

やがてアラビア語によるアラビアンナイト刊本が出版されると、何人かの東洋学者や作家が競うようにして新訳を世に問いました。なかでも知られているのは、学術的だがかたくるしくて読みにくいレイン版、英語版アラビアンナイトとしては最もすぐれているとされるペイン版、好色的なバートン版でしょう。それぞれの特徴から、「ガランは子ども部屋に、レインは図書館に、ペインは書斎に、バートンはどぶに」と評されることもあります。

では、右に挙げた四つの版は、具体的にどう異なっているのでしょう。枠物語冒頭部分、シャフリヤール王の留守中におこった宮廷の女たちの密通シーンを比較してみましょう。

まずはガラン版です。

王妃が手をうち鳴らして「マスウード、マスウード」と呼びますと、高い木の陰から黒人の男が姿を現し、女主人のもとに駆けよっていくのです。礼儀をわきまえる者として、女たちと黒人の男たちの間で何がおこったかは、語らないでおきましょう。それにこのように細かいことを語る必要もありますまい。ここではシャフゼナーン王が、兄王も自分と同じくらいみじめな立場にいるのだと納得したことを語っておけばじゅうぶんでしょう。こうして愛のたわむれは暗くなるまで続きました。

次はレイン版。レインはアラビアンナイトが持つ社会資料としての側面に注目し、学術的

にも有意義な注釈を加えましたが、個人的な倫理観から問題ありと判断した箇所は訳出していません。

それから王妃が『マスード』と呼びかけますと、すぐに一人の黒人奴隷がそばにやってきて王妃をかき抱き、王妃も同じことをしました。そしてほかの奴隷や女たちもこれにならい、一日が終るまでだれもが楽しみにふけったのです。

次のペイン版はバートン版の影に隠れてほとんど知られていませんが、訳語の正確さなどから英語版アラビアンナイトとしてはもっともすぐれていると言われています。

王妃が「マスウード！」と呼ぶと、一人の黒人奴隷がやってきて王妃を抱き、王妃も彼を抱きました。それから黒人奴隷は王妃とともに横たわり、ほかの奴隷も侍女たちと一緒に同じことをしました。そして一同は口づけし、日が傾くまでくんずほぐれつの浮かれ騒ぎが続いたのです。

このペイン版はバートン版や東洋文庫版と同じく、カルカッタ第二版に基づいていますから、東洋文庫版も確認しておきましょう。

やがて妃が「マスウードや」と声をかけると、一人の黒人奴隷がそのそばにやって来て、妃の首をいだき、妃もまたその男の頸をだいた。かの奴隷が妃とたわむれているとき他の奴隷どもも、女奴隷たちと同じようなたわむれにふけった。こうして口づけ、抱きあい、まぐわい、そのようなさまざまのたわむれを日の暮れに近づくまでやめなかった。（平凡社東洋文庫『アラビアン・ナイト　1』）

では、ガラン写本ではこの箇所はどうなっているのでしょうか。

そして妃が「マスードよ、マスードよ」と叫ぶと、一本の木から黒人の奴隷が飛びおりて妃のもとに駆けより、彼女の脚を持ち上げると太腿のあいだに入りこんで交わりました。マスウードが妃に乗りかかると、十人の奴隷が十人の女たちに乗りかかり、夜半になるまで楽しみをやめませんでした。

最後にバートン版です。

いっぽうひとりぼっちになった妃は、すぐさま大きな声をはりあげて叫んだ。「ここへおいで、サイードさま！」すると、木立の中の一本の樹から、さっと飛びおりて、目を

ぎょろつかせ、涎を流した大きな黒人が現れたが、白人にとってはまことにいまわしい姿だった。くだんの黒人は大胆不敵にも妃に近づいて、腕をその首にまきつけた。妃も同じように男をひしとばかりかきいだいた。つぎに男は荒々しく接吻し、まるでボタン孔がボタンをしめるように、自分の脚を相手の脚にからみつけ、地上におし倒して、女を楽しんだ。ほかの奴隷たちも女どもを相手に同じまねをし、だれも彼も淫欲を満たした。接吻し、抱擁し、交会し、ふざけあいなどして、いつはてるともみえなかったが、陽ざしがかげりはじめるころになって、白人の奴隷らはやっと女たちの胸から立ちあがり、また黒人も妃の胸から体を起こした。(河出書房『バートン版千夜一夜物語　一』)

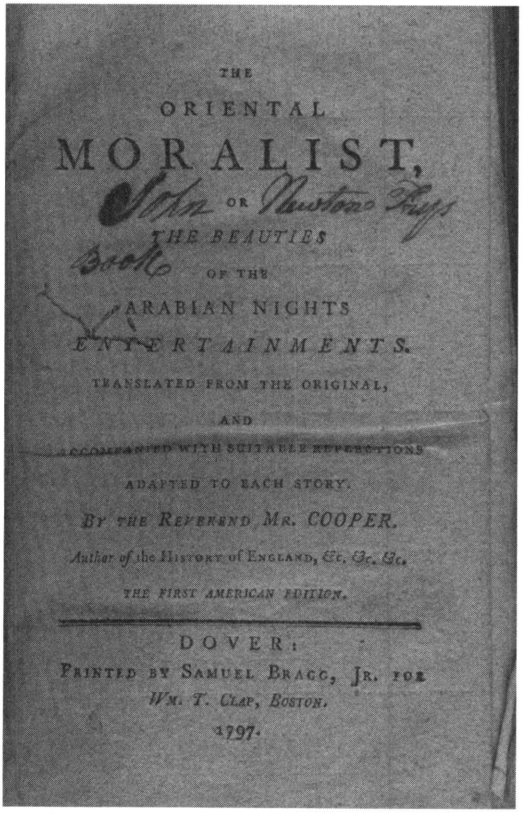
とりあえず、「ガランは子ども部屋に」と評された理由とともに、バートン版が性愛にかかわる箇所を意図的に強調していることがわかっていただけたのではないかと思います。

児童文学としての定着

イギリスでは、子ども向けアラビアンナイトの底本となったスコット版アラビアンナイトが出版される以前から、東方に舞台を借りて道徳を説く話が数多く作られていました。現代の目で見ると不思議に思えますが、十八世紀にはアラビアンナイトや東方風の物語を用いてキリスト教的な倫理を語る選集が編まれていたのです。そのなかの一つ『オリエンタル・モ

ラリスト、もしくはアラビアンナイト・エンターテインメントの美点』がアメリカ大統領リンカーンの愛読書であったことはよく知られています。

これと同じような展開は明治期の日本でも見られました。日本での翻訳事情については回を改めて確認しますが、明治期の文筆家たちもアラビアンナイトを新時代の子女教育に役立てようという意図を持っていたようです。明治期に紹介されたアラビアンナイトはガラン版をもとにしたものでしたし、現在の日本で広く読まれているディクソンの『アラビアン・ナ


THE
ORIENTAL
MORALIST,
OR
THE BEAUTIES
OF THE
ARABIAN NIGHTS
ENTERTAINMENTS.
TRANSLATED FROM THE ORIGINAL,
AND
ACCOMPANIED WITH SUITABLE REFLECTIONS
ADAPTED TO EACH STORY.
BY THE REVEREND MR. COOPER.
Author of the History of England, &c. &c. &c.
THE FIRST AMERICAN EDITION.
DOVER:
PRINTED BY SAMUEL BRAGG, JR. FOR
WM. T. CLAP, BOSTON.
1797.

リンカーン大統領の愛読書だったアラビアンナイト『オリエンタル・モラリスト』(1797、ボストン)

イト　上下』（岩波少年文庫）、ウィギンの『アラビアン・ナイト』（福音館書店）、アンドルー・ラングによる再話（東京創元社『あおいろの童話集』などに収録）などはいずれもガラン版を下敷きにしています。

二十世紀になると子どもたちへのクリスマス・プレゼントとして、豪華な絵本を贈ることがはやり、一流のイラストレーターたちが腕をふるって名作を世に出しました。浮世絵から影響を受けたとされるウォルター・クレイン（一八四五～一九一五）、日本でも人気の高いエドマンド・デュラック（一八八二～一九五三）らの挿絵が入ったアラビアンナイトの初版本は今でも高値で取引されています。

児童文学の定番となったアラビアンナイトでは、子どもたちにもわかりやすくするために中東とその文化にかかわる内容が平準化されていましたから、空想と魔法のファンタジー世界というステロタイプ（紋切型）化にもつながっていきました。逆にバートン版などでは性描写を誇張する傾向があり、官能的でエロチックなオリエントというもう一つのステロタイプ化に拍車がかかったのです。それだけではなく、誰もが知るお話となったことから、主要なキャラクターや小道具を自由に組み合わせることができるようになりました。

神秘と幻想の東方――アラビアンナイトに魅せられた人たち

十八世紀末から十九世紀初期にかけてのイギリスでは、ゴシック・ロマンスと呼ばれる幻

想小説があらわれました。一般的にはウォルポールの『オトラント城奇譚』（一七六四）がゴシック・ロマンス隆盛のきっかけになったとされています。ウォルポールはアラビアンナイトの愛読者でしたし、日本にもファンの多いウィリアム・ベックフォード（一七六〇～一八四四）の『ヴァテク』（一七八二）には、ガラン版アラビアンナイトに類似した話が入っている点が指摘されてきました。

『ヴァテク』はフランス語の小説として作者名を伏せたまま発表され、未発見のアラビア語写本から訳されたという体裁をとっていました。ベックフォードの日記には、彼がアラブ世界に惹かれていたことが記されており、実際にもアラビア語やイスラーム文化について学んだようです。ベックフォードもウォルポール同様にアラビアンナイトを愛し、エジプトで作られたアラビアンナイト写本からいくつかの物語を翻訳したこともありました。

ベックフォードが訳したエジプト系写本は、これをイギリスにもたらした人物の名をとってウォートリー・モンタギュー写本と呼ばれています。エドワード・ウォートリー・モンタギュー（一七一三～一七七六）もベックフォード同様、東方に魅せられた一代の奇人として知られた人物でした。あちこちでトラブルをくりかえした後でエジプトに渡り、アレクサンドリアではフランスの商人ジャン・ワルシーに出会っています。ジャン・ワルシーの名はアリババの章に出てきました。ガラン版アリババをアラビア語に再訳した人物です。

ウォートリー・モンタギュー写本の来歴はよくわかっていません。前半部分にはガラン写

本と重なる物語が入っているのですが、後半部分には他写本に含まれていない話が集まっており、注文主の依頼にそって新たにまとめられたものではないかとされています。この写本には見慣れない言葉が多く、一部を英語訳したバートンもてこずったようです。ちなみに晩年のエドワードはムスリムに改宗し、エジプト人の愛妾と暮らしていました。

このころのアラビアンナイトはすでに幾重にも分かれており、枝ごとにさまざまな形を見せるようになっていました。もはやガラン版という枠組みからは大きくはみ出してしまい、アラビアンナイトという新しい生物として進化しながらさまざまな人の人生を巻きこんでいったのです。

アメリカでのアラビアンナイト

アラビアンナイトは文学以外のジャンルでも、多くの芸術家にインスピレーションを与えてきました。パントマイムをはじめとする大衆劇だけではなく、歌劇やバレエ、映画などの題材として何度もとりあげられてきましたが、最後にアメリカでの状況を確認しておきましょう。

アメリカでは、アラビアンナイトの受容をめぐって独自の展開がありました。第二回でふれたように、フランスやイギリスではガラン版出版直後から、オリエントを舞台とする東方小説が流行したのですが、アメリカで書かれた東方小説では、「自由の国」としてのアイデ

ンティティーが強調されています。

アラビアンナイトがアメリカで出版されたのは、独立まもない一七九〇年代のことだったようです。このころのアメリカは、中東世界と戦争状態にありました。いわゆる第一次バーバリ戦争（一八〇一～〇五）です。当時の北アフリカ沿岸諸国は、海域を通行する無防備な外国船舶から税をとりたてており、バーバリ海賊が横行していました。

資金力のないアメリカ船は通行料を払えなかったのでバーバリ海賊から攻撃され、中には奴隷となって売られてしまったアメリカ人もいました。アメリカ国内では、通行料を払って航行の安全を保証してもらうか、新生国家の誇りをかけて海賊をしりぞけるかという議論がまきおこりましたが、結局は開戦に踏み切って最終的には勝利を得たのです。

第一次バーバリ戦争の勝利は、アメリカ国民のアイデンティティー確立に大きく影響したとされています。アメリカでの東方小説も、フランスやイギリスでの場合とは異なり、中東の専制国家対アメリカの自由主義というテーマに焦点が絞られました。最初期の作品である『アルジェの女たち（戯曲）』（一七九四）では、アルジェで捕らわれの身になったアメリカ女性が中東女性に自由の価値を説くという筋立てになっています。

このようにアラビアンナイトは、受け入れ先の文化にあわせて新しい物語を生み出すようになっていきました。次回では好色文学としてのアラビアンナイトに注目し、バートン版が果たした役割について確認していきましょう。